

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業441社を対象に実施し、409社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成19年1月～3月の実績、平成19年4月～6月の見込み、平成19年7月～9月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成19年3月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	206	191	92.7%
非 製 造 業	235	218	92.8%
計	441	409	92.7%

日銀が4月10日に公表した金融経済月報（基本的見解2007年4月）によると、現状の景気判断について、「わが国の景気は、穏やかに拡大している」とし、先行きについては「景気は穏やかな拡大を続けるとみられる。」としている。

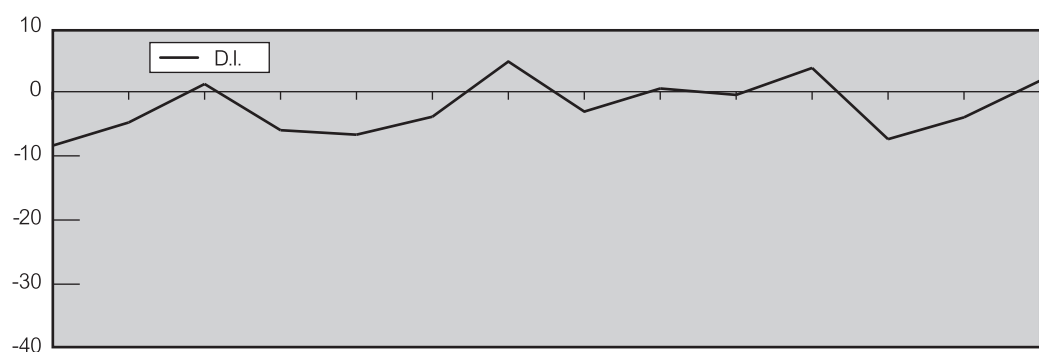
すなわち、「輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加を続けていくとみられる。また、国内民間需要も、高水準の企業収益や雇用者所得の緩やかな増加を背景に、引き続き増加していく可能性が高い。こうした内外需要の増加を反映して、生産も増加基調をたどるとみられる。この間、公共投資は減少基調を続けると考えられる。」として、景気は穏やかな拡大を続けるとしている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良 い	13.2	18.9	21.8	19.7	17.7	17.7	22.2	19.1	19.7	18.3	20.9	17.6	13.6	13.4
普 通	65.3	57.4	57.6	54.6	57.9	60.7	60.3	58.7	61.3	62.9	61.8	57.4	68.8	74.9
悪 い	21.5	23.7	20.6	25.7	24.4	21.6	17.5	22.2	19.1	18.8	17.2	25.0	17.6	11.7
D . I .	-8.4	-4.8	1.2	-6.0	-6.7	-3.9	4.7	-3.1	0.5	-0.5	3.7	-7.4	-4.0	1.7

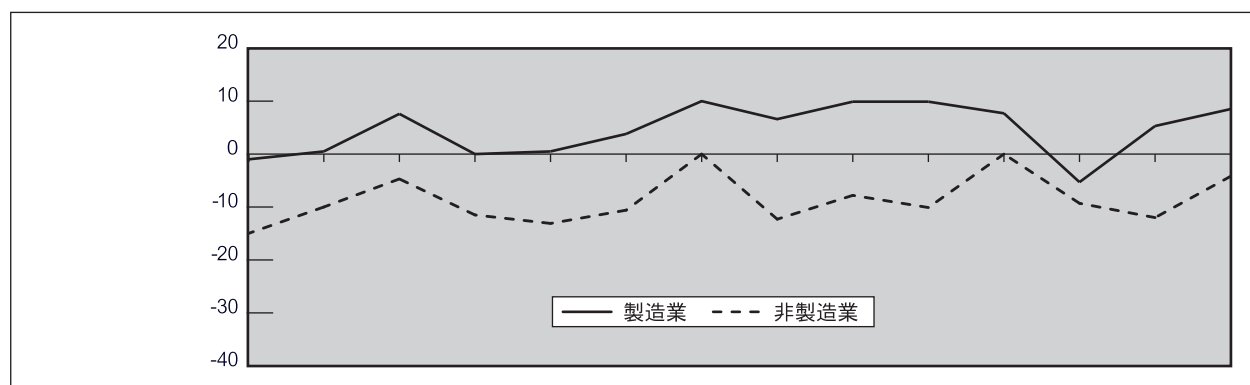


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年			17 年				18 年				19 年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良	い	15.7	19.8	25.4	22.6	22.3	21.5	25.3	23.9	25.7	24.5	22.4	18.1	18.6	16.5
普	通	67.7	60.9	56.9	54.9	56.0	60.8	59.5	58.9	58.6	60.9	62.8	58.5	68.1	75.5
悪	い	16.7	19.3	17.8	22.6	21.8	17.7	15.3	17.3	15.7	14.6	14.8	23.4	13.3	8.0
D . I .		-1.0	0.5	7.6	0.0	0.5	3.8	10.0	6.6	9.9	9.9	7.7	-5.3	5.3	8.5

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年			17 年				18 年				19 年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良	い	10.9	18.0	18.5	17.1	13.6	14.4	19.4	14.6	14.3	12.6	19.5	17.1	9.3	10.7
普	通	63.2	54.0	58.3	54.4	59.6	60.6	61.1	58.5	63.6	64.7	61.0	56.5	69.4	74.3
悪	い	25.9	28.0	23.2	28.6	26.8	25.0	19.4	26.9	22.1	22.7	19.5	26.4	21.3	15.0
D . I .		-15.0	-10.0	-4.7	-11.5	-13.1	-10.6	0.0	-12.3	-7.8	-10.1	0.0	-9.3	-12.0	-4.2



- (1) こうした全国の状況の中で今回の調査では、業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」は、19年1～3月期実績は▲7.4と前期比11.1ポイント悪化した。

先行きについて、19年4～6月期のD.I.は、前期比3.4ポイント改善する見込となっている。

- (2) 業況判断指数D.I.の19年1～3月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は16年4～6月期以来11期ぶりにマイナスとなった。非製造業も前期比9.3ポイント悪化している。

先行きについては19年4～6月期のD.I.は製造業では改善見込みであるが、非製造業は更に悪化見込みとなっている。

製造業の業況判断指数D.I.先行きについて、19年4～6月期見込は5.3、7～9月期は8.5とプラスとなる見込みであり、マイナス期間は脱すると予測している。

一方、非製造業の業況判断指数D.I.先行きについては、19年1～3月期は▲9.3でありマイナスの水準が続く見込となっている。

Ⅱ．売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月
増 加	27.0	36.4	36.3	35.8	35.9	36.4	35.4	35.0	35.0	33.8	36.0	31.6	20.1	21.9
横 ば い	51.7	38.5	38.0	38.9	40.0	40.6	40.5	40.9	44.3	44.4	42.1	40.7	57.8	63.6
減 少	21.3	25.1	25.7	25.3	24.1	23.1	24.1	24.1	20.8	21.8	21.9	27.7	22.1	14.5
D . I .	5.7	11.3	10.6	10.5	11.8	13.3	11.2	10.9	14.2	11.9	14.1	3.9	-2.0	7.4

売上高状況（うち製造業のみ）

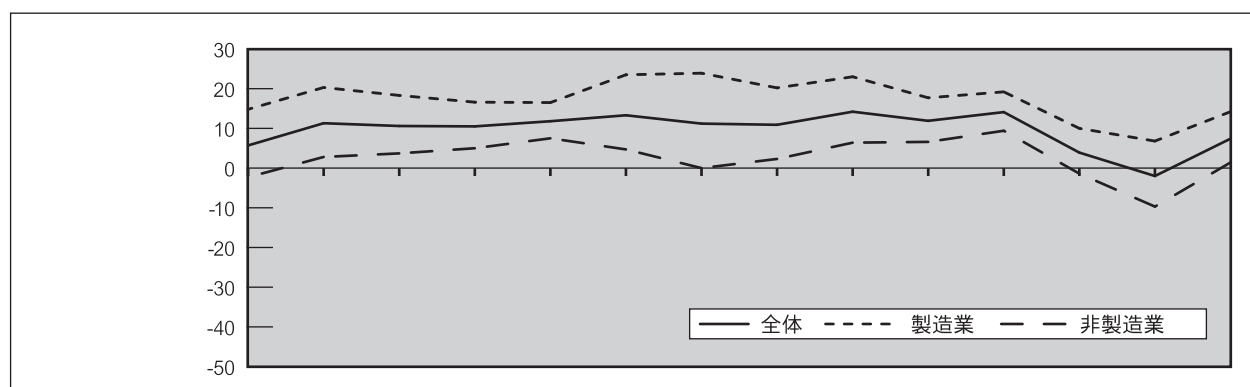
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月
増 加	32.7	41.1	41.3	40.9	41.2	43.8	43.1	41.4	39.2	38.0	39.9	34.7	23.1	23.7
横 ば い	49.4	38.2	35.7	34.7	34.0	35.8	37.8	37.4	44.5	41.7	39.4	40.5	60.5	66.8
減 少	17.9	20.8	23.0	24.4	24.7	20.3	19.1	21.2	16.2	20.3	20.7	24.8	16.3	9.5
D . I .	14.8	20.3	18.3	16.6	16.5	23.5	23.9	20.2	23.0	17.7	19.2	10.0	6.8	14.2

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月
増 加	22.1	31.9	31.8	31.2	31.0	30.2	28.5	29.1	31.2	29.8	32.4	28.9	17.4	20.2
横 ば い	53.6	38.9	40.1	42.7	45.5	44.2	43.0	44.1	44.0	46.9	44.6	40.8	55.5	60.8
減 少	24.3	29.2	28.1	26.1	23.5	25.6	28.5	26.8	24.8	23.2	23.0	30.3	27.1	18.8
D . I .	-2.3	2.8	3.7	5.0	7.5	4.7	0.0	2.3	6.4	6.6	9.4	-1.4	-9.7	1.4



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。全産業の売上高状況D.I.は、18年全期間でプラス10の水準を上回っていた。しかし、19年1～3月期は低下している。

先行きでは19年4～6月期▲2.0と、弱含みであるが、7～9月期から回復予測をしている。

- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けてみると、製造業では18年に比べ19年になり低下傾向となっている。

非製造業は18年全期間でプラスの水準が続いていたが、19年1～3月期のD.I.は▲1.4となり、4～6月期も低下見込みの調査結果となった。

Ⅲ．生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

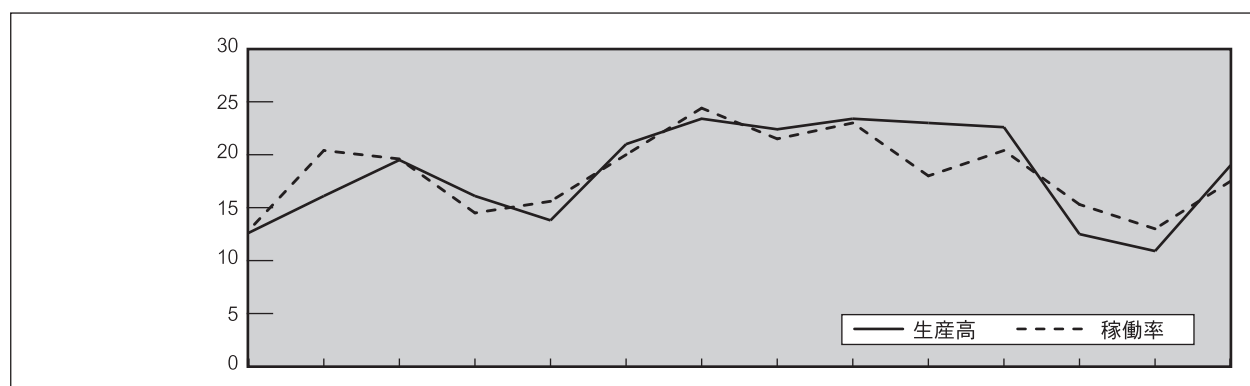
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
20%以上増加	6.8	5.5	10.8	9.7	8.5	9.9	12.5	11.7	7.6	10.7	8.4	6.5	3.8	4.3
20%未満増加	22.1	30.7	30.8	30.1	29.6	30.4	28.3	28.1	32.1	28.3	31.6	27.2	21.2	21.2
横ばい状況	54.7	43.7	36.4	36.6	37.6	40.3	41.8	42.9	44.0	44.9	42.6	45.1	60.9	67.9
20%未満減少	14.2	18.1	19.0	20.4	21.7	18.8	15.2	16.8	13.6	14.4	17.4	19.0	12.5	6.5
20%以上減少	2.1	2.0	3.1	3.2	2.6	0.6	2.2	0.5	2.7	1.6	0.0	2.2	1.6	0.0
D . I .	12.6	16.1	19.5	16.1	13.8	21.0	23.4	22.4	23.4	23.0	22.6	12.5	10.9	19.0

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
上 昇	8.0	6.8	11.9	10.6	9.4	11.7	13.3	12.0	8.2	9.3	5.9	5.1	2.8	2.8
やや上 昇	19.8	26.7	25.3	26.8	27.1	23.9	25.6	27.2	28.4	25.1	31.2	28.2	22.6	22.6
横 ば い	57.2	53.4	45.4	39.7	42.7	48.9	46.7	42.9	49.7	49.2	46.2	48.6	62.1	66.7
やや下 降	13.4	11.5	14.4	20.1	17.7	13.3	13.9	15.2	11.5	15.8	16.7	16.9	11.9	7.9
下 降	1.6	1.6	3.1	2.8	3.1	2.2	0.6	2.6	2.2	0.5	0.0	1.1	0.6	0.0
D . I .	12.8	20.4	19.6	14.5	15.6	20.0	24.4	21.5	23.0	18.0	20.4	15.3	13.0	17.5



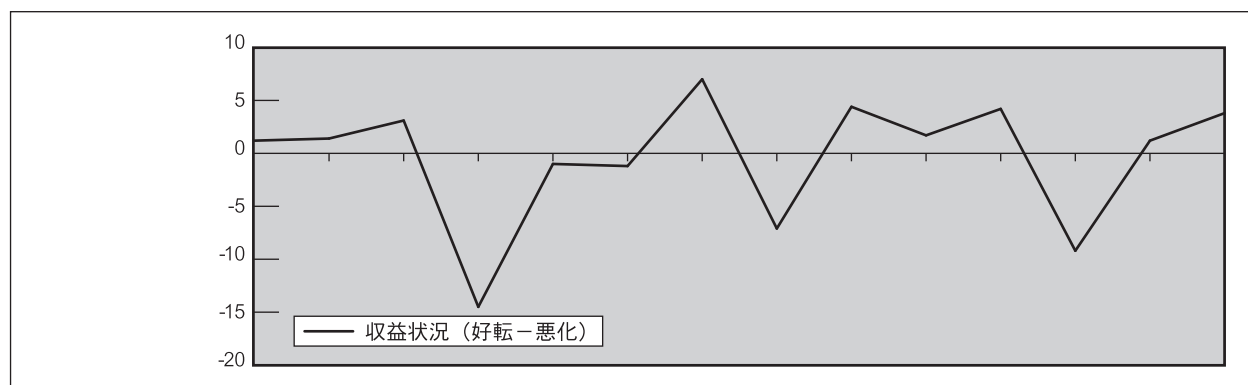
- 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.「増加－減少」は、18年は全期間で20以上となった。19年1～3月期12.5と前期比10.1ポイントの低下となった。
内容では「横ばい状況」と回答した企業が増える傾向が見られ、影響は限定的と考えられる。
- 一方の稼働率状況D.I.からも、18年全期間で稼働率が上昇状況であったが、生産高同様に19年1～3月期は上昇幅はやや落ち着き、4～6月期も同様の見込みとなっている。
製造業の生産高・稼働率の先行き予測19年7～9月期からは、それぞれ上昇するとの予測となっており下降見込みは長期化しない予測となっている。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
好 転	19.0	22.1	22.4	17.7	19.7	21.0	23.5	18.6	23.8	18.4	23.2	19.2	18.7	16.3
横 ば い	63.3	57.1	58.3	50.1	59.6	56.8	60.0	55.6	56.9	64.9	57.7	52.5	63.9	71.3
悪 化	17.8	20.7	19.3	32.2	20.7	22.2	16.5	25.7	19.1	16.7	19.1	28.4	17.4	12.5
D . I .	1.2	1.4	3.1	-14.5	-1.0	-1.2	7.0	-7.1	4.4	1.7	4.2	-9.2	1.2	3.8



好転理由

(%) 見込 予測

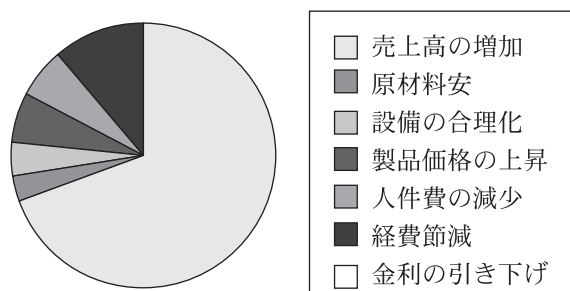
期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
売上高の増加	60.0	64.0	75.7	74.4	69.7	65.5	69.1	56.3	64.6	61.9	61.5	69.4	63.0	71.1
原 材 料 安	5.7	1.8	1.7	2.3	5.1	2.6	2.7	7.1	2.4	6.2	4.9	3.1	2.2	3.9
設備の合理化	5.7	1.8	2.6	4.7	0.0	2.6	1.8	2.7	2.4	4.1	2.5	4.1	2.2	3.9
製品価格の上昇	5.7	5.3	4.3	5.8	8.1	7.8	4.5	12.5	9.4	9.3	10.7	6.1	13.0	9.2
人件費の減少	6.7	7.9	4.3	3.5	2.0	6.9	5.5	1.8	2.4	6.2	5.7	6.1	6.5	1.3
経 費 節 減	15.2	17.5	11.3	9.3	15.2	14.7	16.4	16.1	17.3	12.4	14.8	11.2	13.0	10.5
金利の引き下げ	1.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

悪化理由

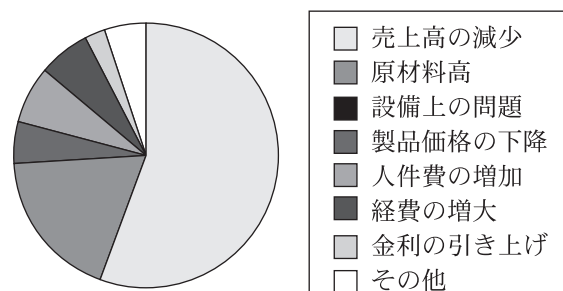
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
売上高の減少	56.0	51.7	57.7	60.0	49.6	48.4	41.8	57.5	38.9	35.4	40.7	55.7	52.9	41.5
原 材 料 高	14.0	19.0	18.3	21.1	19.8	19.8	20.4	19.4	24.1	28.1	20.3	18.4	16.7	23.2
設備上の問題	2.0	0.0	0.0	0.6	1.7	3.2	0.0	0.7	2.8	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0
製品価格の下降	13.0	12.9	14.4	7.4	9.1	8.7	7.1	6.7	7.4	10.4	8.5	5.1	3.9	6.1
経 費 の 増 大	2.0	8.6	4.8	7.4	10.7	9.5	11.2	2.2	5.6	15.6	10.2	7.0	6.9	7.3
人件費の増加	5.0	5.2	1.9	1.7	5.8	5.6	8.2	9.7	12.0	4.2	8.5	6.3	9.8	12.2
金利の引き上げ	1.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	1.7	2.5	3.9	4.9
そ の 他	7.0	2.6	2.9	1.8	2.5	4.8	11.2	3.0	9.3	4.2	7.6	5.1	5.9	4.9

好転理由



悪化理由



- (1) 1～3月期収益状況「好転－悪化」D.I.は、▲9.2と前期比13.4ポイント悪化した。

先行きについては、19年4～6月期D.I.は1.2と19年1～3月期実績より10.4ポイントの好転を見込んでいる。19年7～9月期予測でもプラス予測となっている。

- (2) 「収益状況が好転した」理由、1～3月期実績は、①売上高の増加69.4%、②経費節減11.2%となっている。順位は前回と変わっていないが製品価格の上昇が減少した。

先行きでも、「売上高の増加」が大幅な理由としている。「経費節減」も依然高い理由となっている。

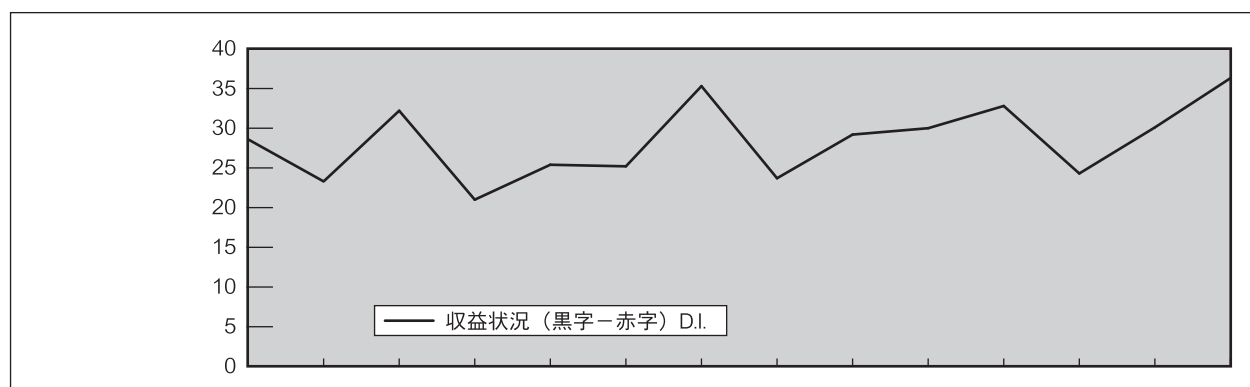
- (3) 「収益状況が悪化した」理由、1～3月期実績は、①売上高の減少55.7%、②原材料高18.4%となっている。

「売上高の減少」は高い理由となり、増加してきている。「原材料高」はやや減少しており、原油高騰が起因する、素材高・燃料費の増大は一服感が感じられる。

収益状況（黒字－償却後赤字）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12 月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12 月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12 月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月
黒 字	43.8	44.7	48.2	43.3	44.8	44.1	48.5	44.4	43.8	44.6	48.5	43.5	42.1	44.9
収支トントン	41.1	34.0	35.8	34.5	35.7	37.0	38.3	34.9	41.6	40.8	35.7	37.3	45.9	46.6
償却後赤字	15.1	21.4	16.0	22.2	19.5	18.9	13.2	20.7	14.6	14.6	15.8	19.3	12.0	8.5
D . I .	28.6	23.3	32.2	21.0	25.4	25.2	35.3	23.7	29.2	30.0	32.8	24.3	30.1	36.3



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、18年4～6月期以降改善し、10～12月期は32.8となったが、19年1～3月期は24.3と8.3ポイント悪化した。

例年1～3月期は悪化しており、季節的要因が考えられる。

19年1～3月期実績では80.8%の企業が黒字もしくは収支トントンと回答しており、19年4～6月期見込では88%の企業が黒字もしくは収支トントンと見込んでいる。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	2.4	2.9	3.5	2.7	4.7	3.6	3.3	3.2	3.6	3.9	3.6	2.4	1.5	2.7
適正	85.8	85.4	84.5	82.8	79.7	81.9	83.0	86.0	83.8	85.5	86.4	84.9	89.7	91.6
過剰	11.8	11.7	12.0	14.5	15.6	14.5	13.6	10.8	12.6	10.6	10.0	12.7	8.8	5.7
D . I .	-9.5	-8.9	-8.5	-11.8	-10.9	-10.8	-10.3	-7.6	-9.0	-6.6	-6.4	-10.3	-7.3	-3.0

製品在庫水準（うち製造業のみ）

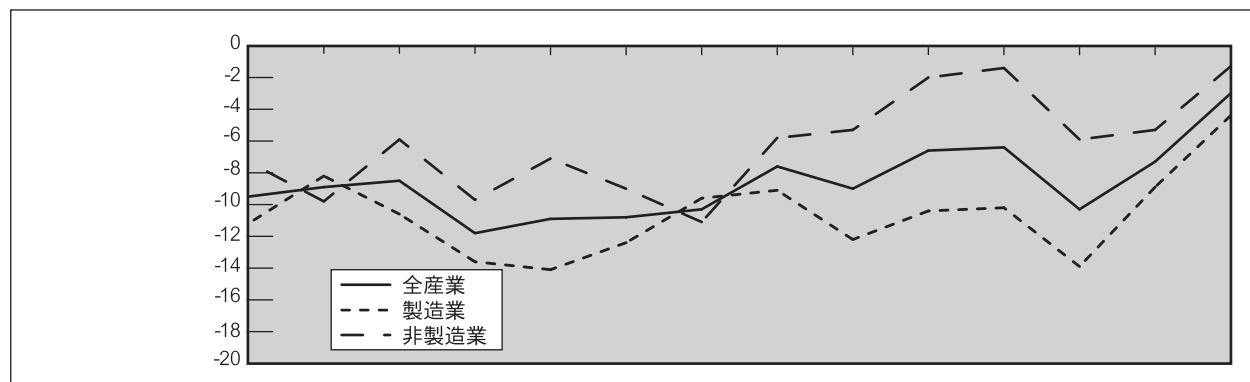
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	2.7	3.6	2.6	2.7	3.2	4.0	4.5	4.3	3.9	3.3	3.7	1.1	1.1	2.8
適正	83.5	84.7	84.1	81.0	79.5	79.7	81.4	82.3	80.1	83.0	82.4	83.9	88.9	90.0
過剰	13.8	11.7	13.2	16.3	17.3	16.4	14.1	13.4	16.0	13.7	13.9	15.0	10.0	7.2
D . I .	-11.2	-8.2	-10.6	-13.6	-14.1	-12.4	-9.6	-9.1	-12.2	-10.4	-10.2	-13.9	-8.9	-4.4

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	2.0	2.0	4.6	2.6	6.5	3.2	2.0	1.9	3.3	4.7	3.5	4.0	2.0	2.6
適正	88.7	86.3	84.9	85.1	80.0	84.5	85.0	90.4	88.2	88.6	91.6	86.1	90.7	93.5
過剰	9.3	11.8	10.5	12.3	13.5	12.3	13.1	7.7	8.6	6.7	4.9	9.9	7.3	3.9
D . I .	-7.3	-9.8	-5.9	-9.7	-7.1	-9.0	-11.1	-5.8	-5.3	-2.0	-1.4	-5.9	-5.3	-1.3



(1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、19年1～3月期は▲10.3となった。

18年に入り製品在庫の過剰感は改善し、全期間を通して17年より改善していたが19年1～3月期では後退した。しかし、先行きは過剰感の改善を予測している。

(2) 19年1～3月期、業種別では、高岡銅器・木材業に在庫の過剰感が見られる。

先行きでも、平成19年4～6月期見込みでは高岡銅器において在庫過剰感が高い回答となっている。

反面、7～9月期では繊維・機械工具販売において在庫不足予測をしている。

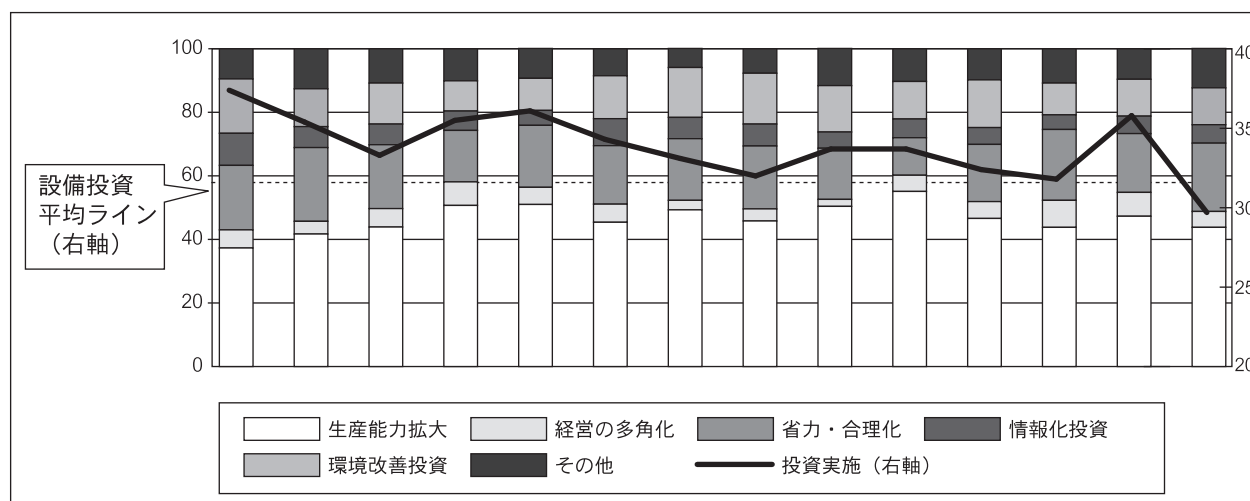
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

		(%)												見込	予測
期別 種別		16 年			17 年				18 年				19 年		
		4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
投資実施		37.4	35.4	33.3	35.5	36.1	34.3	33.1	32.0	33.7	33.7	32.4	31.8	35.8	29.7
投資せず		62.6	64.6	66.7	64.5	63.9	65.7	66.9	68.0	66.3	66.3	67.6	68.2	64.2	70.3

設備投資の目的（実施先について）

設備投資の目的（実施先について）														（％）	
生産能力拡大	37.3	41.7	43.9	50.7	51.0	45.4	49.3	45.8	50.4	55.1	46.6	43.8	47.3	43.8	
経営の多角化	5.7	4.0	5.8	7.4	5.4	5.7	3.0	3.8	2.2	5.1	5.3	8.5	7.5	5.0	
省力・合理化	20.3	23.2	20.1	16.2	19.5	18.4	19.4	19.8	16.1	11.8	18.0	22.3	18.5	21.5	
情報化投資	10.1	6.6	6.5	6.1	4.7	8.5	6.7	6.9	5.1	5.9	5.3	4.6	5.5	5.8	
環境改善投資	17.1	11.9	12.9	9.5	10.1	13.5	15.7	16.0	14.6	11.8	15.0	10.0	11.6	11.6	
その他	9.5	12.6	10.8	10.1	9.4	8.5	6.0	7.7	11.7	10.3	9.8	10.8	9.6	12.4	



- (1) 19年1～3月に設備投資を実施した企業は全産業の31.8%であり、15期連続で30%を上回った。19年1～3月期実績を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は39.8%、非製造業は24.8%となっている。

19年1～3月期に設備投資を実施した企業の投資目的は、生産・販売能力拡大が43.8%でトップ、省力・合理化投資が前期比4.3ポイント増の22.3%で続いた。

- (2) 19年4～6月期に設備投資を予定している企業は全体の35.8%で、予定企業が増加している。

設備投資の目的では生産能力拡大が多く、次に省力・合理化投資とする傾向にある。

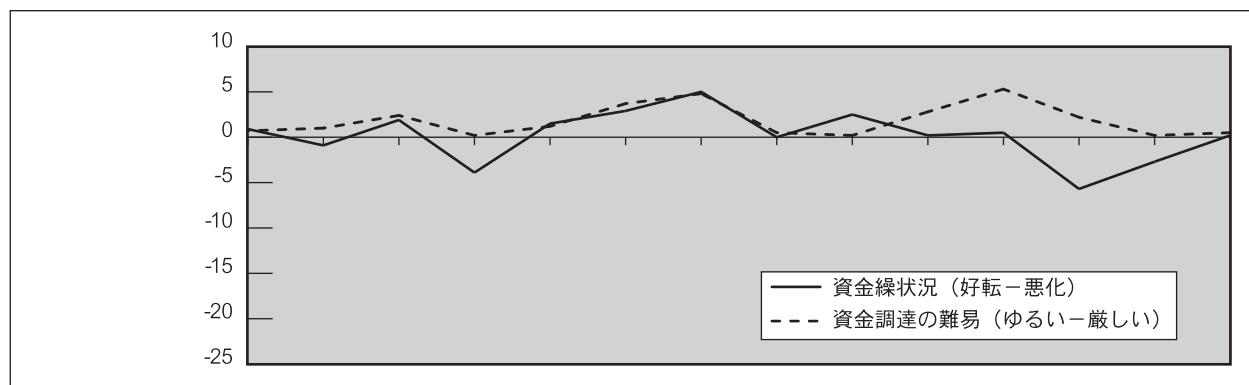
- (3) 19年1～3月期において設備投資実施企業の割合が50%を超えたのは、医薬品製造・電子部品製造・不動産であった。また、4～6月期見込では、50%を超える業種は電子部品製造プラスチック・出版印刷紙加工・百貨店スーパー小売・不動産と増加している。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
好 転	10.4	10.8	11.1	8.7	9.2	10.3	11.7	11.0	10.8	9.2	11.0	8.1	8.8	7.4
変 わ ら ず	80.1	77.4	79.8	78.7	83.0	82.4	81.6	77.9	80.9	81.9	78.4	78.1	79.7	85.5
悪 化	9.5	11.8	9.2	12.6	7.8	7.3	6.7	11.0	8.3	8.9	10.5	13.8	11.5	7.1
D . I .	0.9	-0.9	1.9	-3.9	1.5	2.9	5.0	0.0	2.5	0.2	0.5	-5.7	-2.7	0.2



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年			17 年				18 年				19 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
ゆ る い	13.8	12.0	13.7	12.2	13.1	14.4	14.1	12.2	11.5	13.2	13.8	13.6	12.2	12.0
厳 しく ない	73.1	77.0	75.1	75.4	75.1	74.9	76.6	75.1	77.3	76.3	77.8	75.0	75.9	76.6
厳 し い	13.1	11.0	11.2	12.4	11.8	10.7	9.3	12.7	11.2	10.4	8.5	11.4	11.9	11.5
D . I .	0.7	1.0	2.4	-0.2	1.2	3.7	4.8	-0.5	0.2	2.8	5.3	2.2	0.2	0.5

(1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は18年はプラスであったが、19年1～3月期は▲5.7となり、先行4～6月期もマイナスの懸念される調査結果となった。

(2) また、資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」においても、19年1～3月期2.2と3.1ポイント減少。先行きについては、19年4～6月期もマイナスを予測している。

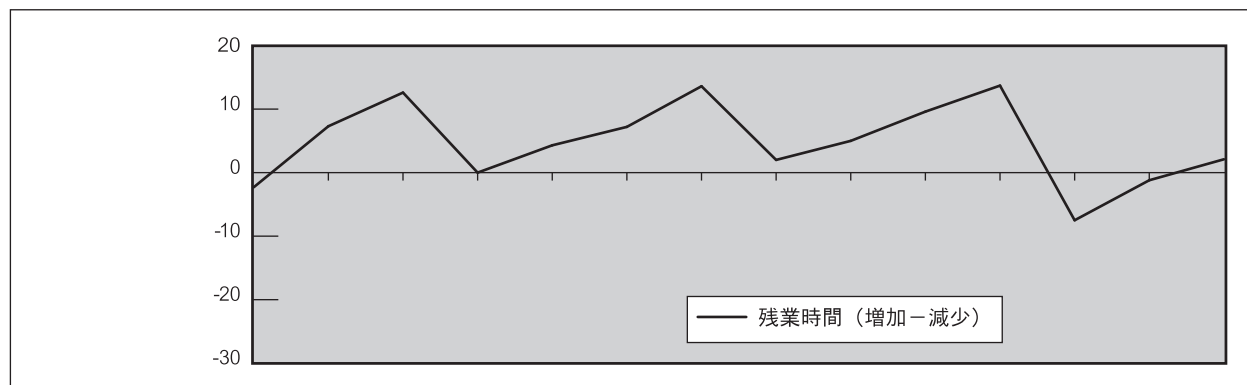
90％近くの企業が資金調達に厳しさを感じていない一方で、資金調達に厳しさを感じている企業も依然として10％超と増加してきている。

業種では、宿泊業が最も高く、次に土木業となっている。温泉旅館の顧客減少、公共工事の減少が要因と思われる。

VIII. 労務事情

残業時間

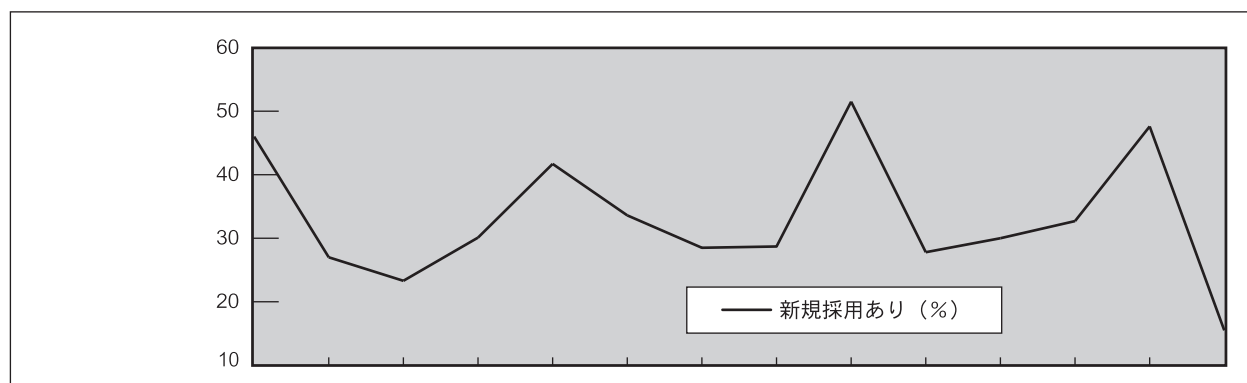
		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年			17 年				18 年				19 年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
増加		14.4	19.1	25.4	20.2	19.6	19.1	24.6	19.5	19.4	17.2	22.5	15.6	12.6	10.5
横ばい		68.9	69.1	61.7	59.7	65.0	69.1	64.3	63.1	66.2	75.3	68.7	61.3	73.6	81.0
減少		16.7	11.8	12.8	20.2	15.3	11.8	11.0	17.4	14.4	7.5	8.8	23.1	13.8	8.4
D.I.		-2.3	7.3	12.6	0.0	4.3	7.2	13.6	2.0	5.0	9.6	13.7	-7.5	-1.2	2.1



- (1) 残業時間（増加－減少）D.I.19年1～3月期は、前期比マイナス21.2ポイントとなり残業時間は大幅に減少したが、19年4～6月期見込み▲1.2、7～9月期予測2.1と増加予測をしている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年			17 年				18 年				19 年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
全産業		46.0	27.0	23.3	30.0	44.8	33.1	28.9	32.0	48.2	26.9	29.9	30.6	49.9	13.8
(うち製造業)		49.2	28.4	25.6	29.7	48.2	32.5	29.3	35.5	44.5	25.9	29.9	28.1	52.4	11.9
(うち非製造業)		43.1	25.7	21.1	30.1	41.7	33.6	28.5	28.7	51.5	27.8	30.0	32.7	47.6	15.5

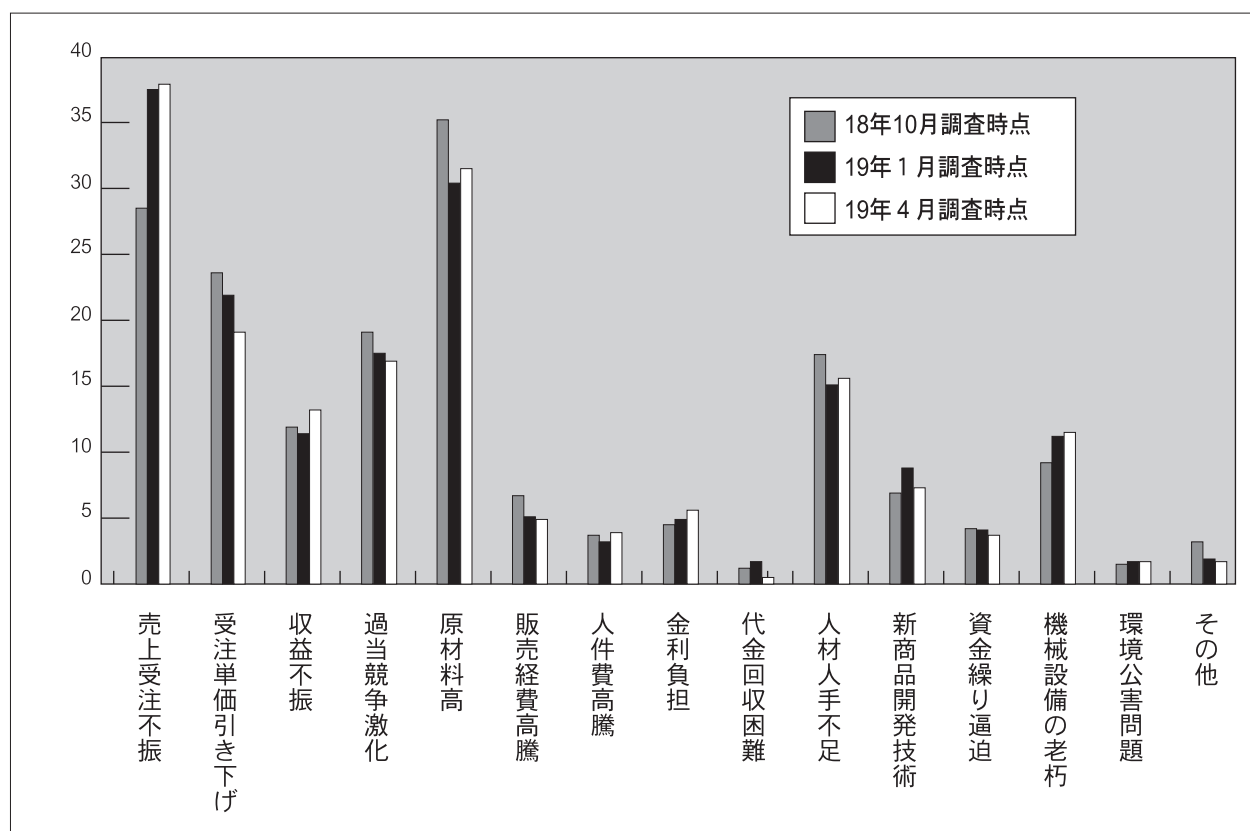


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について4～6月期に約50%の企業が採用を予定している。

IX. 当面の経営上の問題点

(%:複数回答あり)

	18年10月 (前年)	19年 1 月 (前回)	19年 4 月 (今回)			前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売 上 受 注 不 振	28.5	37.5	37.9	(32.5)	(42.7)	0.4
受注単価引き下げ	23.6	21.9	19.1	(18.3)	(19.7)	-2.8
収 益 不 振	11.9	11.4	13.2	(13.6)	(12.8)	1.8
過 当 競 争 激 化	19.1	17.5	16.9	(9.4)	(23.4)	-0.6
原 材 料 高	35.2	30.4	31.5	(44.5)	(20.2)	1.1
販 売 経 費 高 騰	6.7	5.1	4.9	(1.0)	(8.3)	-0.2
人 件 費 高 騰	3.7	3.2	3.9	(2.6)	(5.0)	0.7
金 利 負 担	4.5	4.9	5.6	(4.2)	(6.9)	0.7
代 金 回 収 困 難	1.2	1.7	0.5	(1.0)	(0.0)	-1.2
人 材 人 手 不 足	17.4	15.1	15.6	(14.7)	(16.5)	0.5
新 商 品 開 発 技 術	6.9	8.8	7.3	(12.0)	(3.2)	-1.5
資 金 繰 り 逼 迫	4.2	4.1	3.7	(2.1)	(5.0)	-0.4
機 械 設 備 の 老 朽	9.2	11.2	11.5	(14.1)	(9.2)	0.3
環 境 公 害 問 題	1.5	1.7	1.7	(1.0)	(2.3)	0.0
そ の 他	3.2	1.9	1.7	(2.1)	(1.4)	-0.2



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振37.9%(前期比+0.4ポイント)、②原材料高31.5%(前期比1.1ポイント)、③受注単価引き下げ19.1%(前期比▲2.8ポイント)の順となっている。
- これを製造業と非製造業に分けてみると前回アンケート同様、製造業では原材料高44.5%(前期比+2.1ポイント)、非製造業では売上受注不振42.7%(前期比▲0.5ポイント)の割合が高くなっている。
- 今回調査では収益不振が前期比1.8ポイント増加し13.2%となった。特に製造業では前回調査を2.5ポイント上回り13.6%となった。
また、非製造業では過当競争激化が2.1ポイント増加し23.4%となっている。